

瑞龍院様より御寄進狀には、居屋敷田地山林竹木被下候と御座候而、高之員數は無御座候得共、右田地米高に圖り候得ば、右之通御座候。

一、六石五斗

立野 長久寺

一、五拾石

今石動 永傳寺

一、二拾石

礪波郡 安居寺

外三百文山錢

安居寺は、天平年中より御座候。中古亂世に而大破候處、從瑞龍院様御建立被成候由御座候。右御建立年號等、しかと書記候紙面無御座候得共、慶長十一年之由申傳候。同十六年瑞龍院様御再興被仰付、元和四年徒微妙院様寺領御寄附被成、并安居山之内三百文之所御寄進に成候。

一、百俵之地

立山 岩嶽寺

内

三石九斗二升

御供并神事入用

四拾六石八斗

衆徒配分

立山岩嶽寺は、文武天皇之御宇大寶元年より御座候由申傳候。中頃亂世に而、社堂燒失仕候所、高德院様御代天

正十六年米百俵御寄進被成、瑞龍院様御代講堂修理被仰付候。社壇・拜殿は慶長十七年・正保二年兩度に、從微妙院様御再興に御座候。室堂は、元和三年に從玉泉院様御再興に御座候。本社之儀者、寛永十八年微妙院様御再興被成候。夫より御代々修理被仰付候。

一、百俵之地

立山 岩嶽寺

中宮姥堂は、大寶三年文武天皇之草創に御座候由申傳候。中古社堂及大破候所、天正十六年從高德院様米百俵御寄進、天正十八年に姥堂・帝釋堂・閻魔堂・大黒堂・講堂・大宮・若宮・佐伯堂、重而御再興被成候。慶長十一年從瑞龍院様修理被仰付、夫より御代々修理被仰付候。

一、二拾石

大岩山 日石寺

先規より御座候由。最初取立之品者相知不申候。當山不動尊者、聖武天皇之御宇天平六年より之石佛之由に御座候。不動堂及大破候に付、氏子共奉加之儀申觸に罷出候所、其砌微妙院様越中御鷹野に被成御座、路次に而御覽被成、委細御尋に而、先師并堂之住持滑川御旅屋迄被召寄、則加賀守様御祈禱所に可被仰付由御意に而、山林

竹木居屋敷被下、寺領高二十石拜領地慶安五年社堂共に御再興、夫より御代々修理被仰付候。

一、五拾石

明日山 法福寺

一、六石七斗九升二合

氷見 養老寺

一、二百石

國府 勝興寺

以上。

### 四 越中分社寺員數之事

一、越中埴生以下凡社數四十九ヶ所。

一、同曹洞宗寺數七十三ヶ寺。

一、同天台宗同斷三十三ヶ寺。

一、同眞言宗同斷三十五ヶ寺。

一、同淨土宗同斷二十一ヶ寺。

一、同日蓮宗同斷二十ヶ寺。

一、同一向宗西方二百三十九ヶ寺。

一、同東方二百八十七ヶ寺。

一、同山伏當山方二十五ヶ寺、本山方九十八ヶ寺。

### 五 能州分社領・寺領並御修覆地之事

一、三百五拾石

能州 一宮

一宮は、崇神天皇之御建立之由申傳候。天正十年從高德院様社領二百石御寄附被成、明曆三年從微妙院様百五拾石御加被成、都合三百五拾石之御判物被下候。承應四年社堂御建立、夫より御代々修理被仰付候。

一、九拾俵之地

菅原 天神社

内五拾俵は修理料に被仰付候而、社僧被渡置候。天神之社、最初建立之様子相知不申候。北野之靈神勸請之天神に而御座候。中頃亂世に而燒失仕候。其後茅社建立有之所、高德院様能州御下向御合戰之時分、菅原に御一宿御祈禱被仰付、御利運に成候以後、天神之社領二拾五石、兩社僧に二拾石御寄附被成候。微妙院様御代社堂御再興可被仰付由に而、社領米之内被除置候得共、御再興不被仰付、萬治三年よりは右除米社僧共相渡被成候而、自分に再興可仕旨被仰渡、相應之修理仕候。